

50
75

人みな既に罪を犯せば神の榮よ及ばず

(ローマ書三章廿三節)

神の救

只神の恩によりイエスキリストに在る贖に類り功なくして義とせらるるなり

(同 三章廿四節)

十イエスキリストの事を尙詳く知りたき諸
靈魂の救に付て心配せらるゝ諸方は左の
訪被下度候

東京市日本橋區鐵炮町八番地

淺田喜三郎

横濱山手中村千四百六十五番地
車坂上

丹 森太郎

大坂東區南久寶寺町四丁目
心齋橋筋南入
石原久之助
京都四條小橋東入
村田榮次郎

夫神は其生給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は凡て
彼を信する者に亡ることなくして無窮生命を受しめんため也(ヨ

ハ子傳三章十六節

活る眞神は我等此世の者を愛して御自身の獨子を賜ひました何人
も此御方を信すれば亡ることなくして無窮生命を受けいつまでも生
ることができます、扱汝は亡る者です今神の救を受なければ必ず永
遠無窮の苦痛を受るに至り申す活る眞神が天地萬物を造り日を照
雨を降せ萬物を支配り給ふに汝は此眞神を知らず又神を拜せず
木石金土などを以て造り又紙に畫きたる人の像や獸の像などを神
佛と稱へ之に拜伏して事へてをります是れが神の前にてイト大なる

夫神は其生給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は凡て
彼を信する者には口ることなくして無窮生命を受しめんため也

ハ子傳三章十六節

活る眞神は我等此世の者を愛して御自身の獨子を賜ひしは如何に

も此御方を信すれば亡ることなくして無窮生命を受けいつまでも生

ることとができません、汝は亡る者です今神の救を受なければ必ず永

遠無窮の苦痛を受るに至ります活る眞神が天地萬物を造り日を照

雨を降せ萬物を支配り給ふに汝は此眞神を知ず又神を拜せずして

木石金土などを以て造り又紙に書きたる人の像や獸の像などを神

佛と稱へ之に拜伏して事へてをりまず是れが神の前にてオト大なる



罪です又汝は人間同志で互に怨み憎み貪り欺きなどいたし其他日々に犯す罪は數へあげることばできません神は聖御方ゆへ罪を惡みま
 す義御方ゆへ罪を罰せずして見通すことばできませんが汝は此活る
 神の前にて罪を犯して生涯を過えてをるに由て後には必ず神の罰を
 受ねばなりません假令ひ汝は神を見ず神を知らずとも神はよく汝の心
 の中中で見通して知り給ふゆへ汝を罰せずしてをくことばできません
 ん汝は僅の年月を此儘に送りまゑやうが遂には**死**ます而して死後
 神の臺前よ立て一生涯の罪の裁判を受け永遠無窮の苦痛の中に投込
 れます「一たび死る事と死て裁判を受ける事は人に定れる事なり」ライ
 書九章とは實に動ざる嚴なる神の言です
 廿七節

汝は苦痛を好みますすまい況んや永遠の地獄の苦痛を逃れたく思ひま
 せんか扱如何したら神の恐ろしき刑罰を免る事ができまゑやうか、
 今日より熱心お神佛を念じますか、活る神を拜せずして偶像に事へ
 るとこそイト大なる罪なるに木や金の神佛を念じて活る神の罰を免
 れやうとするは愚な事です今日より善心を起して善事を行ひますか
 、汝は罪人に生れ付てをります故神の御意に適ふ善事はトテモでき
 ません、又汝は甚い惡事をせず品行の良さを人に譽められてをるか
 ら大丈夫だと思ひますか、神の前よ義き者は一人もありません、又
 汝は釋迦や聖人に頼みて救はれますか、此人々は名僧智識ではあり
 まゑやうが既に死て其肉體は腐敗れ果たる者なるに彼等に頼みて如

何なにで免まぬれる事ことがでさまままやうか、夫それ神かみは聖きよき義たしき活いる
 神かみです汝あなたが神かみの前まへに呼よび出だされた時ときは偽いつはる事ことも言い遁のがれる事こともでさまま
 せん

然さぞ茲こゝに私わたくしが心こゝろに溢あふれて汝あなたに話わたした事ことがでざります、否いな、神かみ御ご自じ
 身みが恩めぐみ寵ごんを以もて汝あなたに布ふ告こし給たまふ福ふく音ねです即すなはち汝あなたは自じ分ぶんで罪つみを清きよるよ
 及およばず又また偶ぐう像ざうや死し人にんに頼たのまずして唯ただだ夫かの一ひとたび十じゅう字じ架か上じやうに血ちを
 流ながし今いまは天てんに生いてごござる耶い蘇す基き督とくを信しんじさへすれば神かみは全まく汝あなたの
 罪つみを赦ゆるして汝あなたを救きうひ給たまひます
 初はつ距きよ今いま千せん八はち百ひゃく有あり餘あまり前まへに神かみの御ご子こ一ひと個ごの人ひととなりて處おとめ女めママリヤより
 生うまれ其その名なをイイエエスと呼よび給たまひましたイイエエスの年とし大おほ凡およ三さん十じゅうになりて神かみ

の御ご用ようを始はじめユユダダヤ ガリガララヤの諸しよ州しゅうを巡めぐりて偏あまねく人ひと々々を教おしへ
 又また大おほなる權ちから能ちからを以もつて奇ふし跡ぎせきを行おこなひ盲めくら人の眼めを開ひらき跛ちんぱ者の足あしを立たて癩らい病びやう
 人を潔きよめ聾つんば者の耳みみを明あけ又また或ある時ときは死しぬ者ものを復い活かへせて神かみが憐あはれなる此この世よ
 の罪つみ人を愛あいえたまふ御ご心こゝろを示しめし又また御ご自じ分ぶんが神かみより來きたりたる者ものたる事こと
 を証あかしし給たまひました然されば人ひと々々イイエエスの恩めぐみ寵ごんと能ちから力ちからとを見みて其その難あつか有あ恩めぐみ
 惠めぐみを喜よろこび是これこそ實じつに世よの救すく主ぬしなりと信しんずる者ものも少せうからざりしが世よの
 人ひとは推おしなべてイイエエスを憎にくみました多おほ數くの人ひと々々は唯ただごご己おのが慾よくのみを
 考かんがへて神かみに事つかふ心こゝろなき故ゆゑ神かみに忠ちゆう義ぎなる此この御ご方かたがその心こゝろに適あひません
 又また學まな者がくしやなどは己おのが智ち識しきを恃たのみて神かみの眞しん理りを知しりませんから眞しん理りを語かた
 り給たまふ御ご方かたを嫉ねたみ宗しゆう教きやう家かは神かみの眞しん實じつの御ご旨めがねを辨わけず又また己おのれこそよく

神に事ふる義き者と思ひをる故憐なる者罪深き者を愛し給ふイエスの恩寵に痛く反對しまして遂に人々此尊貴き御方を執へて無法の手を以て十字架に釘付に致しまたア―是は何と悪むべき事又恐多き事ではありませんか神は御自分に敵しをる我等此世の者を愛して之を救はんために其獨子を遣し彼を由て世を己に復和がせんとし給ひしに我等は之を受ず又之を信ぜず却て無法も神の御子を殺すとは如何も人の罪惡の極度です然るにイエスは死者を呼び活す大能の力を有ち乍ら屠場に引る、羊の如く毛を切る者の前に黙す羔の如く靜に彼等の爲すがまゝに任せ又十字架の上にて御自身を罪の犠牲として神に獻げ給ひました又神は斯様なる非常の罪惡を行へる世を觀

面に打亡さずして却て罪なきイエスを罪の犠牲として取扱ひ罪に對する怒を其上に洩し神の義き刑罰を其上に降してイト聖くイト義き神の御意を満足させ給ひました左れば今迄父は愛せられ父なる神常に共に在したまひしイエスは十字架の上にて神に棄られ神に打れたれば晝の十二時より三時に至るまで其他偏く暗黒となり「我神く何ぞ我を棄て給ふや」四十六節 どの叫を發し其靈魂を注ぎ出し無限の苦痛を受け貴き血を流して死たまひました斯くイエスは父の命令に従ひ貴き生命を捐て、其御旨を成就し給ひたれば神は第三日に彼を死者の中より復活せて天に擧げ其右手に坐せしめ給ひました即弟子等はイエスの死體を十字架より取下し之を墓の中に置きたる

に主は第三日に復活りて弟子に顯はれ傷跡ある其手と脅を示し又共に飲食して四十日の間屢々彼等に顯はれ給ひたるが其後彼等の見る前よて天に擧られ父なる神より榮光と尊貴とを着せられて今其御顔より正午の日よりも益なる神の榮光を照り輝せをり給ふです而して神は此キリストイエスを立て贖罪所となし何人にもイエスの血を信じて神に來る者の罪を赦し之を義とし給ひます、前に陳たる通り汝は神に敵ををる罪人なれば神の刑罰を受けるは當然ですが神は亡る罪人を愛して罪なき御子を罪の犠牲として彼の上に刑罰を降して凡て彼を信する者を救ひ給ふです神は一点の罪をも見遁すこと能ざる義き御方であるが又一人の罪人の亡るを好み給はざる愛の御方な

るが故に夫の十字架の上よて其惡む所の罪を罰し以てイエスを信する罪人の罪を赦したまふとは何と不思議にも難有救ではありませんか、人の中に義者一人もなく神を求る者なく善を行ふ者なく皆神に反きををる惡人ばかりにて神の法律を守り命令を行ふの力なき者たるを神は能く御存なるの故に今は人より何をも求めず全く其**純粹**の**恩寵**を以て救ひ給ふのです、汝はドレヅ詮術なき罪人たる事に氣が付て神の惠の御旨に従ひ只一の救主なるイエスキリストを信じなさい然ば汝は恐ろしき亡を免れ無窮生命を受けて永遠も神の前に福に生き存へをることのできます然るに汝は耶蘇の神は外國の神である我は既に我國の神佛を信じをるの故に是でよろしいと云

ひますか、然し萬物を造り之を支配り給ふ活る眞神は只だ獨一で
 す外國の神とか我國の神とか云ふて幾位もあるものではござりませ
 ん汝の神とか佛とか稱る者は死人を祀りたる者や木石を以て造りた
 る偶像にして活てざる眞神では有ません又耶蘇はユダヤに生給
 しの今は天に在して全世界の救主です「此れ別な救ある事なし蓋は
 天下の人の中に我儕の依頼みて救はるべき他の名を賜はざれば也」
 (使徒行傳四章十二節)と録されてある通り**耶蘇**と云名の御方の
 外に**罪人の救主**はありません重ねて申しますの汝は生涯
 の罪を如何なさいますか汝の神の前に呼出されて罪の裁判を受る時
 分には實にたまりません今のの中に十字架上に死たまひし主イエス

を信じ左の言を聽て安心をなさ

「其(神の)子イエスキリストの血凡ての罪より我等を潔む」ヨハ

子第一書一章七節

「誠に實に爾曹お告ん我言をさく我を遣し者信ずる者は無窮
 生命を有かつ裁判に至らず死より生に遷れり」ヨハ子傳五章二

十四節

今は恩惠の時今は救の日ですから何人でも只だイエスを信じさへす
 れば救はれます神は恩深き御方ですから汝の速く信じて救はれん事
 を求め給ひます乍然若し汝此大なる救を等閑にして見過しをらば誠
 に危い事です汝は今夜死るかも知れません「無知なる者よ今夜汝の

靈魂たましひとらんと事ことあるべし」(ルカ傳十二章二十節)と神かみは云いひ給たまひま
 す又また時とき至いたらば今いま天てんに坐まし給たまふ主しゆイエスキリスト人々ひとびとの思おもひよらざる
 時ときに雲くもに乗のりて此この地ち上じやうに顯あらは來きたり玉たまふです其その時とき汝なは從ま來ま悔ありたり
 耶蘇いを日ひよりも輝かがやく榮光さかの中うちに見みて恐おそれ戰おのろ永無窮亡かぎりなくはろびねばなりま
 せん神かみは實じつに恩寵めぐみの神かみです又また慢あやる可べからざる神かみにいま給たまひます

靈魂たましいとららる事ことあるべし」(ルカ傳十二章二十節)と神かみは云いひ給たまひま
 す又また時とき至いたらば今いま天てんに坐まし給たまふ主しゆイエスキリスト人々ひとびとの思おもひよらざる
 時ときに雲くもに乗のりて此この地ち上じやうに顯あらはれ來きたり玉たまふです其その時とき汝あなたは從これ來まで悔あはりおりたる
 耶蘇いほせを日ひよりも輝かやや榮光さか光かの中うちに見みて恐おそれ戰おのとかぎりなくはる
 せん神かみは實じつに恩寵めぐみの神かみです又また慢あなる可べからざる神かみにいまし給たまひます

明治廿七年二月十五日印刷
 全 全年全月廿一日出版

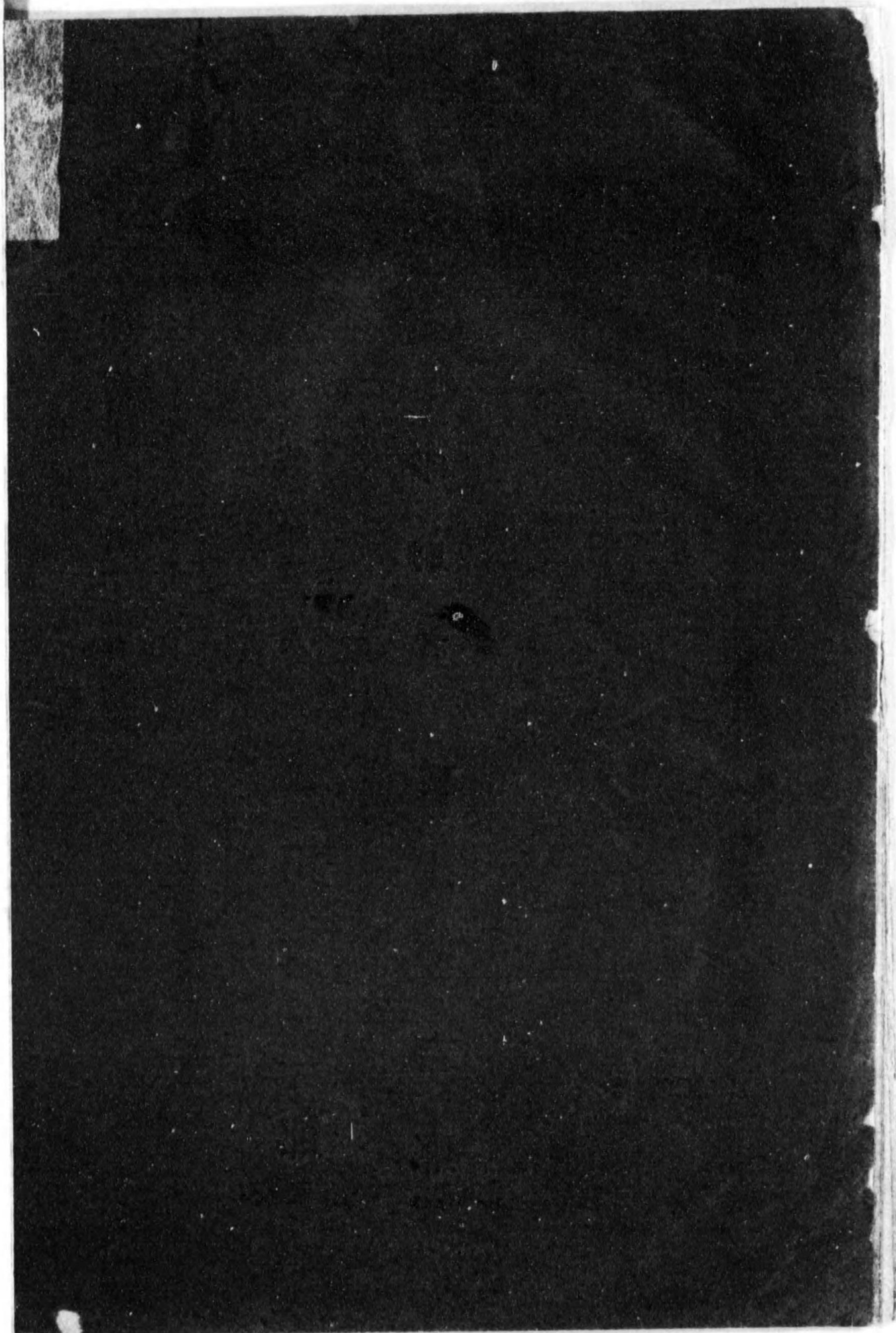
發行

東京市日本橋區鐵炮町八番地

著述兼發行人 淺田喜三郎

東京市神田區北神保町十五番地

印刷者 村上豐吉郎



020343-000-4

特62-929

神の救

浅田 喜三郎/著

M 2 7

ABI-0149

